若者の活動意向と都市像に関する研究
― 茨城県日立市を事例として ―

谷口　宥斗[1]・金　利昭[2]・山田　稔[3]・平田　輝満[4]

[1]学生会員　茨城大学大学院　理工学研究科（〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1）
E-mail: 18nm818y@vc.ibaraki.ac.jp
[2]正会員　茨城大学　工学部都市システム工学科（〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1）
E-mail: toshiaki.kin.prof@vc.ibaraki.ac.jp
[3]正会員　茨城大学　工学部都市システム工学科（〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1）
E-mail: minoru.yamada.civil@vc.ibaraki.ac.jp
[4]正会員　茨城大学　工学部都市システム工学科（〒316-8511 茨城県日立市中成沢町4-12-1）
E-mail: terumitsu.hirata.a@vc.ibaraki.ac.jp

近年，都市計画を考えたとき，どのような都市空間でどのような活動を行うか，という明確な都市像を共有できていないことが問題として挙げられる．そのため，都市像を描出する場合，活動意向から住民のニーズを把握し，住民に望まれる施設・サービスの取捨選択を行う必要がある．本研究では地方都市で著しく人口減少が進んでいる茨城県日立市の若者を対象とし，アンケート調査により若者の活動意向や若者が住みたいと考える都市タイプを明らかにし，活動との関係性から都市像を提示することを目的とする．分析の結果，日立市での生活満足度が高い人ほど自生活圏にない施設・サービスは周辺地域にあれば十分と考えている人が多いことが明らかとなった．またいくつかの都市開発プランを提示したところ，公共交通の利便性が向上し，その公共交通網沿線に居住施設や都市施設を分散配置するプランが若者からの支持を集めた．

Key Words : *youth's intention, activity ,ideal city, population, behavior, lifestyle*

1.　はじめに

(1) 研究の背景

近年，都市の問題を考えたとき，住民や自治体の間で「どのような都市空間で，どのようなライフスタイルで生活するのか」というイメージの共有ができていないことが問題として挙げられる[1)]．これは，現代の都市計画はつくる側の論理で作られており[2)]，使う側である住民の活動や生活スタイルが考慮されていないからであると考えられる．都市像とはまちづくりにおける目標像であり，そのイメージとは単に街の機能や施設などに左右されるものではなく，住民のライフスタイルや生活の質，行動，社会のあり方などと密接に関わっている[1)]．

一方，世界中の調査機関が病床数や集客施設数などの公的な統計データを用い様々な観点から都市を評価し，そのランキングを発表している．例えば，東洋経済の『住みよさランキング』2017 年版[3)]では，「安心度」「利便性」「快適度」「富裕度」「住居水準充実度」の 5 つの観点について分類し，合計 15 の指標で全国 814 都市を順位付けしている．すなわち，既存の調査では，よい街とは都市施設や住まい環境などの整備が行われた街とされている．

しかし，内閣府による「国民生活に関する世論調査[4)]」によると，国民の 70.3%が現在の生活に満足しているという結果が出ている． 加えて，食生活の面で「不満」とする者の割合は 13.1%，住生活の面では 20.9%，また自己啓発･能力向上の面では 35.1%，レジャー・余暇生活の面では 38.4%となっており，基本的な生活よりも，それより高次の欲求を満たすための活動に不満を持っている人が多いことがわかる．また，内閣府による「高齢社会白書[5)]」によると，日本の総人口は，長期の人口減少過程に入り，2060 年（平成 72 年）には，国の人口が約 9300 万人にまで減少すると推計されている．このまま人口減少が進めば，地域経済の縮小やコミュニティの衰退，社会インフラの維持管理など都市計画において，極めて深刻な事態になることが予想される．このような状況を踏まえ，都市の人口減少を食い止めるためには，若者の人口定着を促すことが喫緊の課題と言える．

したがって，都市像を描出するためには，都市機

能・施設だけではなく，住民同士のコミュニケーションや地域コミュニティ，居住する住民の活動，ライフスタイルなどを考慮する必要があり，特に若者の都市に対するニーズを把握するため，活動や生活スタイルを考えていかなければならない．

(2) 既存研究と本研究の位置付け

都市像に関する研究では，瀬戸ら [6]が地方都市を対象とし，ⅰ.市民が重視する生活意向の把握 ⅱ.集約型の将来都市像へ向けた選択肢の提示 ⅲ.市民による選択から導き出される将来都市像の提示 ⅳ.導き出された将来都市像の評価 という市民の生活意向に基づく集約型コンパクトシティの都市将来像を導き出すためのプロセスを提案した．また，若者の余暇活動と生活の質に関する研究では，菅野ら [7]が首都圏および地方都市の大学生を対象にアンケート調査を実施し，飲酒活動や趣味・娯楽活動の頻度が主観的幸福度に影響を与える要因となっていることを把握した．他にも，HOME'S 総研『Sensuous City [官能都市]』[8]では，これまでとは異なるアプローチで都市を評価しており，都市でのアクティビティとして，「共同体に帰属している」，「街を感じられる」など 8 つの指標を各 4 つずつ，計 32 項目について「どの程度の頻度で経験したか」を 4 段階の選択肢で尋ね回答を得点化して都市を評価している．

以上のように既存研究や調査から，生活意向や余暇活動など住民の活動や居住環境，将来都市像などに着目され始め，研究されていることが伺える．しかし，これまでに行われてきたような意識調査では，若者の活動・生活スタイルと都市像の関係性を探る研究は行われていない．

(3) 本研究の目的

本研究では，人口減少が著しく進む地方都市の茨城県日立市を対象地とし，アンケート調査を行い人口定着のカギとなる若者の望む活動・生活スタイルを明らかにし，若者の都市へのニーズを把握することを目的とする．また，若者の望む活動・生活スタイルに関する調査項目を新規に作成し，日立市の将来都市像と若者の活動や生活スタイルなどとの関わりを示す．

2. 研究方法

(1) 調査対象地の概要

日立市は，茨城県の北部，東京都心から約 120km 圏内に位置し，市の一部は首都圏整備法に基づく都市開発区域に指定されている．高萩市，常陸太田市，

表-1 アンケート調査概要

期間	2017 年 12 月 7 日(木)~26 日(火)
対象者	茨城大学工学部 学部 2 年生~修士 2 年生
調査方法	配布：講義終了後に配布 研究室へ訪問し手渡し 回収：設置した回収ボックスによる回収 研究室へ訪問し受取
部数	配布：350 部 回収：207 部（回収率：59%）
質問項目	① 個人属性 ② 現在の理想とする活動・生活スタイル ③ 日立への満足度，居住意向 ④ 都市タイプ選択（住みたい住環境）

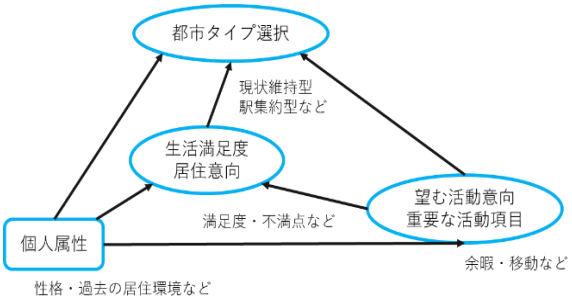

図-1 都市タイプ選択に影響を与える要因の構造

那珂市，那珂郡東海村に隣接しており，国道 6 号，245 号，常磐自動車道，JR 常磐線，茨城港（日立港区）など広域的な交通体系の整備の進展などによって，早くから鉱工業都市として栄えた日立市を中心に，電気機械等の産業及び人口の集積が進んできた．しかし，現在は人口減少が著しく進んでおり，かつて 21 万人を数えていた人口は約 180000 人（2017 年 10 月 1 日）でつくば市に抜かれ県内 3 位の人口規模となっている [9]．また国立社会保障・人口問題研究所の推計では，2040 年には約 14.1 万人になることが予想されている [10]．

(2) 調査内容

若者の活動意向と住みたい住環境を探り，その関係性を明らかにするため，茨城大学工学部の学生に対してアンケート調査を行った．**表-1** に概要を示す．ここで，将来の都市像や現在の生活満足度に影響を及ぼす要因は個人の活動意向や性格などの個人特性だと考えた．そこで**図-1** のように，「活動意向」や「性格」などの個人の特性の違いと「都市タイプ選択」や「日立市に対する満足度」は，関わりがあると考えて分析を行っていく．

(3) 質問項目の作成

調査項目の作成に際して，従来型の調査項目では，都市の施設や機能への満足度，重要度などについて

表-2 活動・生活スタイルに関する質問項目(一部抜粋)

A:都会での活動　B:郊外・田舎での活動，A1:特に重要，A2：やや重要，B2：やや重要，B1：特に重要

買い物	実際に商品を手にとって確認したい	A_1	A_2	B_2	B_1	ネットの画面で商品を確認できればいい
	買い物は徒歩か自転車圏で済ませたい	A_1	A_2	B_2	B_1	買い物は公共交通やマイカーでいければよい
余暇	自宅や職場以外の空間で楽しみたい	A_1	A_2	B_2	B_1	自宅でのんびりできればよい
	遊ぶときは人知れず過ごしたい	A_1	A_2	B_2	B_1	遊ぶときに知り合いと遭遇しても気にならない
移動	移動は無駄である	A_1	A_2	B_2	B_1	移動自体を楽しみたい
	目的地には自動運転で楽に行きたい	A_1	A_2	B_2	B_1	目的地には自分で運転して行きたい

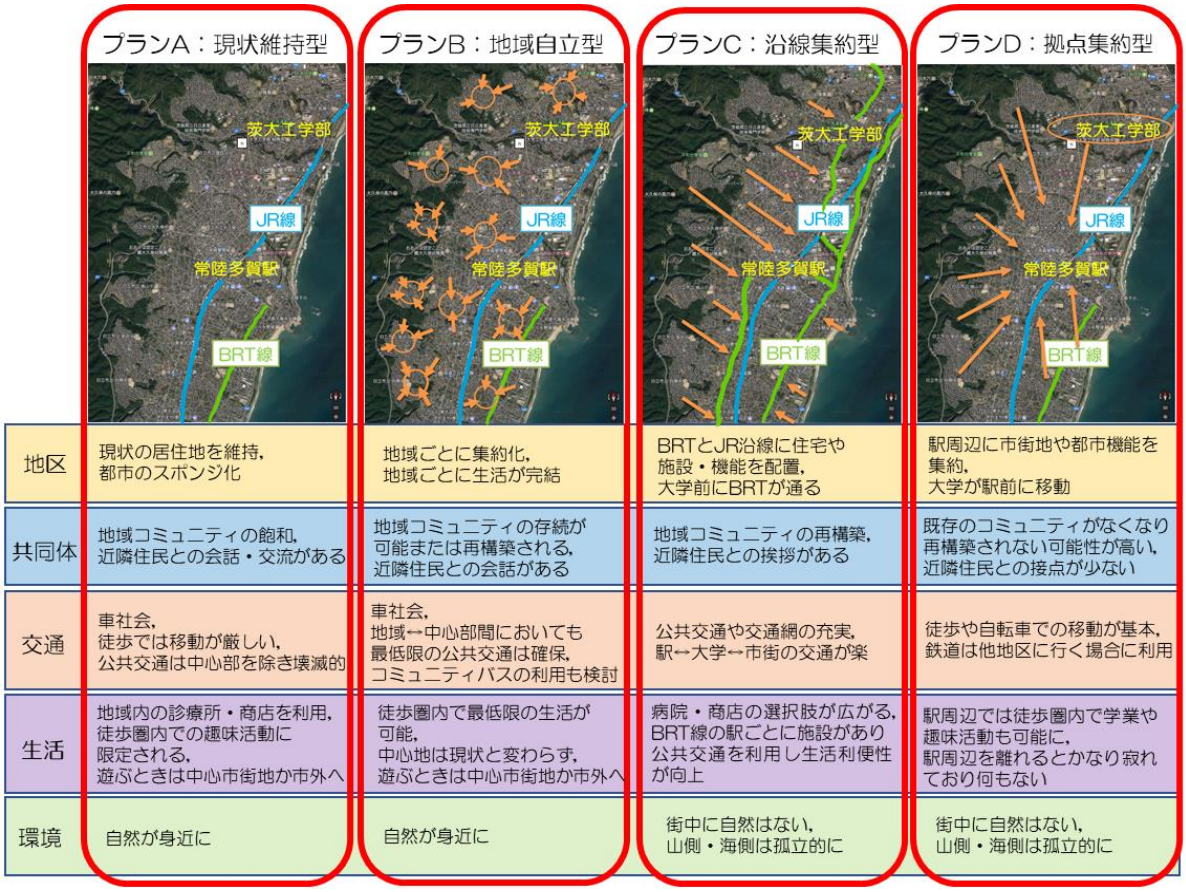

図-2　都市タイプ選択(一部抜粋)

尋ねているものが多く，回答者の都市に対する活動意向等の本質的な欲求を汲み取ることができていないと考えられる．本アンケートの調査項目では，従来型の質問項目と「Sensuous City」調査の質問項目などを参考にし，「食事」「買い物」「余暇」「移動」など全 14 分野 30 項目からなる調査項目を作成した．作成した項目の一部を**表-2** に示す．

今回，作成した活動・生活スタイルの項目（**表-2**）は，1 つの項目につき A:都会での活動 B:郊外・田舎での活動 のように選択肢が対になっており，A,B どちらの活動を重要とするか選択させる形式になっている．また，A1:特に重要，A2：やや重要，B2：やや重要，B1:特に重要と 4 段階評価で回答を求めた．これにより，都市計画で力を入れるべき部分を把握することができ，地方都市においても効率の良い都市計画を進めることができると考えた．さらに，住民の性格や活動意向，重要だと考える活動を把握し，そこから都市の施設・サービスを考えることによって，従来型の調査項目から汲み取れるニーズよりも，より高次の欲求を見出すことができると考えた．次に「都市タイプ選択」では**図-2** のように「プラン A：現状維持型」，「プラン B：地域自立型」，「プラン C：沿線集約型」，「プラン D：拠点（駅）集約

型」の 4 つの将来の日立市のプランを作成し，住みたいプランを選択してもらった．

また「個人属性」は性別や過去の居住地，自由に使用できるお金の他に，「積極的↔消極的」，「短気↔気長」などの性格を二者択一で回答してもらう質問項目を設けた．その理由として，住みたい都市タイプや日立市に対する満足度，望む活動・生活スタイルなどは，回答者の思考や嗜好による影響も強いと考えられるからである．

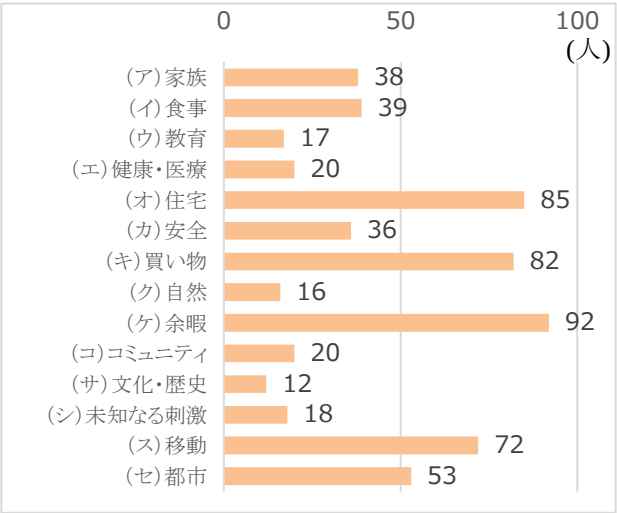

図-3　重要とする活動項目

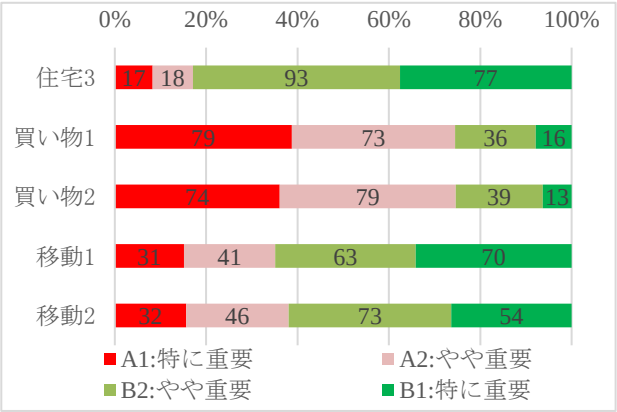

図-4　若者の活動意向

ここで，
住宅 3　A:高級住宅地や高層マンションで暮らしたい
　　B:一般的・普通な家で暮らしたい
買い物 1　A:郊外のショッピングセンターでまとめ買いしたい
　　B:近場の馴染みの個人商店で買いたい
買い物 2　A:実際に商品を手にとって確認したい
　　B:ネットの画面で確認できればいい
移動 1　A:徒歩・自転車・バスでゆっくり移動
　　B:車を使って便利に済ませたい
移動 2　A:移動は無駄である
　　B:移動自体を楽しみたい

(4)　アンケート調査の基礎集計

まず，回答者が重要とする活動項目の集計結果を**図-3** に示す．「買い物」「余暇」「移動」「食事」「都市」などの活動項目を重視しており，**図-4** より「買い物」では大型ショッピングセンターでの買い物や実際に商品を手に取って確認することを重要とする人が多く，「住宅」では自宅でのんびりすることや時代の先端をいく施設での活動，「移動」では車を使った移動や移動という行動そのものを楽しむことを重要視する人が多いことがわかった．

また，**図-5** から日立市に満足している人は 40%程度であり，現在の日立の「公共交通が不便」「道路の渋滞が多い」「車道・歩道の状態が悪い」「交通の安全性が低い」「坂道が多い」ことを不満だと感じる回答者が多く，余暇活動や交通の便に満足していないことがわかった（**図-6**）．

加えて，住みたい住環境選択の集計結果を**図-7** に示す．沿線集約型の都市タイプであるプラン C が 1 番多く選ばれており，集約型都市タイプであるプラ

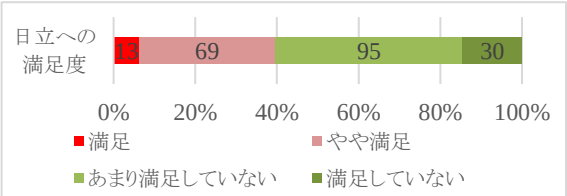

図-5　日立市に対する満足度

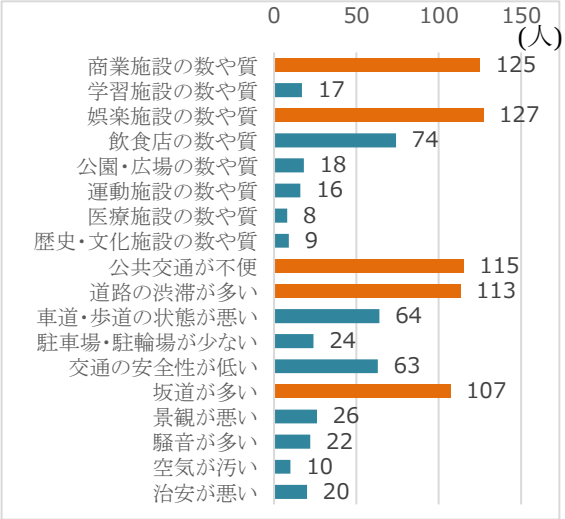

図-6　日立市に対する不満点（複数回答）

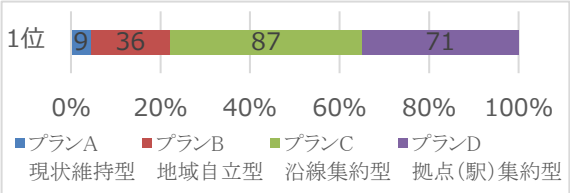

図-7　住みたい住環境

ンCと駅集約型のプランDを選択する人が合わせて75%と都市構造の大幅な変更を望む人が非常に多く，現状の日立市の姿のままではよくないと考えている人が多いという結果となった．

3. 若者の活動意向に関する考察

(1) 個人属性とのクロス集計

個人属性（保有している車両，性格など）の違いが活動意向や望む都市像に影響を与えていることが考えられるため，個人属性とそれらの関係を分析した．その結果，統計的に 5%有意水準で性格では積極的な人ほどご近所さん皆が顔見知りの付き合いを重視する傾向があり，また自分を優先する性格の持ち主は映画館や漫画喫茶などで少数で遊ぶことを重視する傾向があることがわかった．

他にも**図-8, 9, 10** より自動車を保有している人は移動や買い物を車で済ませることを重要と考える割合が高いこと，自生活圏にない施設・サービスは周辺地域にあればよいと考える割合が高いことが分かった．また，自動車を保有している人ほど，保有していない人よりも商業施設に対する不満が低く，住みたい都市タイプでもプラン A,B など街にあまり手を加えないプランを選択する割合が高かった．

(2) 満足度・都市タイプとのクロス集計

次に，日立市に対する満足度や望む都市タイプなどと活動意向との関係を分析した．その結果，統計的に 5%有意水準で日立市に対する満足度・居住意向が高い人ほど，必要最低限なものがそろっている郊外や田舎での生活を重要視する割合が高いこと．反対に日立市に対する満足度・居住意向が低い人ほど，活気があり変化に富んだ大都市でラウンドワンやカラオケなどで大勢で遊ぶことや，自宅・職場以外のサードプレイスで楽しむことを重要視する割合が高いことが分かった．

加えて，住みたい住環境のプラン選択では，プランDを1位に選択した人ほど日立市に対しての不満や日立市の商業施設に不満がある割合が高く，また都心部での暮らしを重要としている割合が高いことが分かった．反対に**図-11, 12** のように都市プラン A,B などのまちにあまり手を加えないプランを選んだ人は，利便性よりもゆったりとした暮らしを望んでいることがわかる．

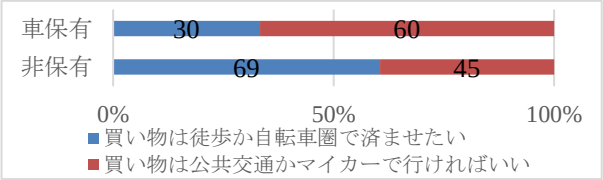

図-8 クロス集計の結果

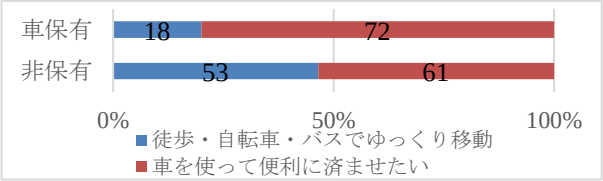

図-9 クロス集計の結果

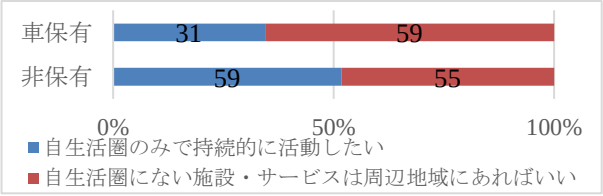

図-10 クロス集計の結果

(3) 都市へのニーズの考察

単純集計及びクロス集計の結果から，対象とした若者は，「住宅」「余暇」「買い物」「移動」などの活動項目を重要としており，「マンションや高級住宅街よりも一般的な一軒家・アパートなどに住みたい」「近場の小売店より郊外などの大型 SC で買い物したい」「ネットで商品を見るだけでなく，実際に商品を手にとって確認したい」「車を使って移動したい」「サードプレイスでの活動より自宅でのんびりしたい」などの活動意向があることがわかった．つまり，買い物時の移動や休日の過ごし方などに関心が強いといえる．したがって，若者にとって，生活圏と商業圏でしっかりと区分けが行われており，商業圏に行くまでの公共交通や道路整備などを中心に行うことが若者を惹き付ける都市につながるのではないかと考えられる．

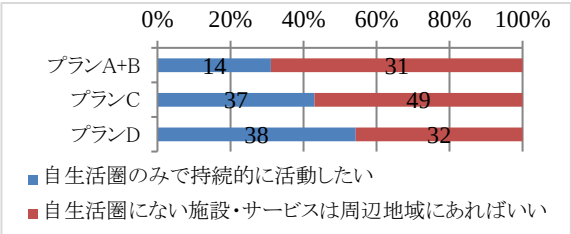

図-11 クロス集計の結果

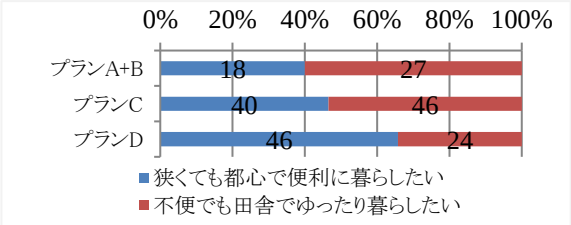

図-12 クロス集計の結果

4. 日立市に対する満足度に影響を与える要因

日立市に対する満足度と活動意向の関係を探るため，二項ロジスティック回帰分析を行った．ここで日立市に対する満足度において「(やや)満足している」を「1」，「(あまり)満足していない」を「0」とし，性格や活動項目を説明変数としている．分析の結果を**表-3**に示す．

Hosmer-Lemeshowの検定において 0.329>0.05を満たしていることから，実際のデータに適合し，Nagelkerke R2値は0.634，また予測正解率は84.2%となった．また，日立市に満足している人ほど「買い物」では近場でのショッピングとネットショッピングを重要視している．「未知なる刺激」では落ち着いた変わらない街での生活を重要としている．「都市」では郊外や田舎で近場にない施設やサービスは周辺地域で利用する生活を重要とする傾向があることがわかる．また，「家族」「歴史・文化」「都市」の活動項目を重要と考える人が多く，性格では「臆病」「インドア派」のほうが満足度は高くなることが分かった．

以上の結果から，日立市での生活に満足している人は，日用品などの買い物を近隣のコンビニやスーパーで行い，趣味の買い物は楽天やアマゾンなどを利用していると考えられる．また，現状に満足している人は，日立市でできない人はひたちなか市や水戸市などの近くの都市で行っていると考えられる．

表-3 日立市に対する満足度の分析結果

	日立市に対する満足度				
観測		0	1	正解率	*：10%有意
不満	0	99	13	88.4	**：5%有意
満足	1	16	55	77.5	***：1%有意
全体の正解率				84.2	

	偏回帰係数	標準誤差	Wald	有意確率	オッズ比
1.近場の馴染みの個人商店で買い物をしたい	1.639	0.8	4.201	0.04 **	5.149
1.ネットの画面で商品を確認できればいい	1.893	0.785	5.815	0.016 **	6.639
1.自宅周りで自然を味わいたい	-2.878	0.952	9.135	0.003 ***	0.056
1.映画館や漫画喫茶などで少数で遊びたい	-1.615	0.765	4.461	0.035 **	0.199
1.地域ボランティアのパトロール等があればよい	-1.304	0.739	3.116	0.078 *	0.271
1.出かけ先で文化・歴史に触れたい	-1.972	0.846	5.436	0.02 **	0.139
1.人気はいらない	-2.436	0.918	7.034	0.008 ***	0.088
1.落ち着いた変わらない街がいい	2.296	0.875	6.875	0.009 ***	9.93
1.移動自体を楽しみたい	1.466	0.738	3.947	0.047 **	4.332
1.大都市以外（郊外や田舎など）に住みたい	2.734	1.098	6.197	0.013 **	15.393
1.自生活圏にない施設・サービスは周辺地域にあればいい	1.717	0.75	5.236	0.022 **	5.568
家族	2.466	1.017	5.876	0.015 **	11.775
健康医療	-2.619	1.376	3.622	0.057 *	0.073
住宅	1.413	0.788	3.22	0.073 *	4.109
文化歴史	2.691	1.459	3.403	0.065 *	14.754
移動	1.57	0.882	3.167	0.075 *	4.807
都市	2.532	0.981	6.664	0.01 **	12.575
臆病	1.792	0.833	4.63	0.031 **	6.003
インドア派	1.991	0.847	5.526	0.019 **	7.326
リアリスト	-1.34	0.805	2.772	0.096 *	0.262
周囲に働きかけて環境を変える	-1.393	0.679	4.216	0.04 **	0.248
定数	-7.196	2.494	8.324	0.004 ***	0.001

モデル係数のオムニバス検定 有意確率	0.000
-2 対数尤度	129.1
Nagelkerke R2 乗	0.634
HosmerとLemeshowの有意確率	0.329

都市間の移動には時間がかかるが，満足している人は移動を楽しめる人が多いので，苦にならないと考えられる． 反対に，満足していない人は，街に活気があり自分の生活圏で趣味活動を行うことを重要視していると考えられる．

5. 住みたい住環境に影響を与える要因の分析

(1) 各項目と住まい環境の関係

住みたい住環境においても，都市タイプのプランC,D を 1 位に選択した人と活動意向や性格などとの関係を探るため，二項ロジスティック回帰分析を行った．ここで住みたい住環境で「プラン D：拠点集約型」を「1」，「プラン C：沿線集約型」を「0」とし，性格や活動項目を説明変数としている．分析の結果を**表-4** に示す．なお，住みたい住環境においてプラン A,B を選択した人は少数だったため，今回は分析を省いた．

Hosmer-Lemeshow の検定において 0.128>0.05 を満たしていることから，実際のデータに適合し，Nagelkerke R2 値は 0.616，また予測正解率は 87.0%となった．また，都市プラン D を 1 位に選択した人は，「控えめ・謙虚」「慎重に考えて行動する」「気長」などの性格の影響があることがわかった．活動・生活スタイルでは，「子供の声や都市の賑やかな中で暮らしたい」「自宅周りで自然を味わいたい」「街に人気はいらない」などが影響を及ぼしている．

表-4 住みたい住環境の分析結果

	都市タイプ一位				
観測		0	1	正解率	*：10%有意
C	0	67	7	90.5	**：5%有意
D	1	10	47	82.5	***：1%有意
全体の正解率				87	

	偏回帰係数	標準誤差	Wald	有意確率	オッズ比
消極的	-3.925	1.479	7.043	0.008 ***	0.02
神経質	-4.753	1.492	10.15	0.001 ***	0.009
内向的	-2.307	1.318	3.063	0.08 *	0.1
控え目謙虚	3.085	1.337	5.322	0.021 **	21.86
臆病	-4.192	1.416	8.769	0.003 ***	0.015
慎重に考えて行動する	4.125	1.49	7.659	0.006 ***	61.864
気長	2.389	1.174	4.142	0.042 **	10.898
のんき	-3.04	1.039	8.554	0.003 ***	0.048
お金に厳格	-2.373	0.989	5.754	0.016 **	0.093
1.子供は自由に育ってほしい	-1.418	0.855	2.755	0.097 *	0.242
1.子供の声や都市の賑やかな中で暮らしたい	2.132	0.963	4.9	0.027 **	8.434
1.一般的・普通な家やアパートで暮らしたい	-1.659	1.003	2.735	0.098 *	0.19
1.自宅周りで自然を味わいたい	2.221	1.083	4.205	0.04 **	9.215
1.遊ぶときに知り合いと遭遇しても気にならない	-1.609	0.942	2.914	0.088 *	0.2
1.ご近所さん皆が顔見知りの付き合い	-2.418	1.014	5.69	0.017 **	0.089
1.人気はいらない	2.085	0.974	4.585	0.032 **	8.048
1.目的地には自分で運転していきたい	-2.387	0.909	6.899	0.009 ***	0.092
定数	7.096	3.492	4.128	0.042 **	1206.6

モデル係数のオムニバス検定 有意確率	0.011
-2 対数尤度	98.807
Nagelkerke R2 乗	0.616
HosmerとLemeshowの有意確率	0.128

(2) 将都市像に関する考察

これまでの分析結果を**表-5** にまとめた．都市タイプのプラン C：沿線集約型の都市像に住みたいと考えている人は，消極的で神経質な人の割合が比較的多いことがわかった．その理由としては，有意差は出なかったがプラン C を選択した人はレジャーを日立で行う傾向があり，積極的に市外に出てまで趣味活動を行う人が少ないことが考えられる．反対に拠点集約型の都市像に住みたいと考えている人は，現在の日立市に対するマイナスの意見を持っている割合が多く，特に商業施設の数や質に関して不満を持っている割合が高かった．その理由として，日立市自体には商業施設はあまりないが，近隣都市であるひたちなか市や県庁所在地でもある水戸市には若者向けの商業施設がたくさんある．しかし，プラン D：拠点集約型を選択した人は，徒歩圏内での趣味活動を望んでいるため，商業施設に不満を持っている割合が高いと考えられる．

また，沿線集約型を選択した人で活動意向に関して，拠点集約型を選択した人とは異なり（オ）住宅の項目では B 側（郊外・田舎での活動）の選択肢である「田舎でゆったり暮らしたい」「普通の家・アパートに住みたい」の活動・生活スタイルを重要視する割合が多かった．これは，拠点集約型の都市での生活を考えた場合，駅前が高密度化されてしまっているため高層マンション等に住むことが考えられ，ゆったりとした生活が送れないと回答者が考えたものと思われる．

拠点集約型を選択した人は，有意差は出なかったが重要な活動項目において「余暇」を重視する人が他の都市プランを選択した人に比べ多かった．その理由として，プラン D を選択した人は自由に使えるお金が十分にあることもあり，また学生のため空いている時間が多い．このような人たちは，お金を使って遊べる空間・施設が大切であり，その為都会での生活を望んでいると考えられる．

以上のように，個人の活動・生活スタイルの好みや性格などと望む都市像には関わりがあることが示した．

6. おわりに

本研究では，地方都市である茨城県日立市を対象地とし，若者の活動意向や住みたい住環境を把握するために，「家族」や「移動」,「都市」など 14 分野 30 項目からなる対の選択肢を用いた調査項目を作成した．また，集約型や現状維持型など 4 つの都市タイプを仮定することで，若者の住みたい住環境を把握するための調査項目を作成した．そして，その関係性を導出するために茨城大学工学部の学生を対象にアンケート調査を行なった．その結果，カイ二乗検定や回帰分析により，個人属性と活動意向，日立市への満足度や都市タイプ選択へのかかわりを明らかにした．それら得られた結果を以下に示す．

表-5 分析結果のまとめ

都市タイプ		プランC：沿線集約型	プランD：拠点(駅)集約型
住民像		1:消極的	5:控え め・謙虚
		2:神経質	11:気長
			商業施設に不満
			お金に不自由がほとんどない
			日立市に不満
			日立市に住みたくない
活動意向	教育		6:遠くても気に入った有名学校がいい
	住宅		7:狭くても都心で便利に暮らしたい
		9:一般的・普通な家やアパートで暮らしたい	8:子供の声や街の賑やかな中で暮らしたい
	買い物	11:郊外の大型ショッピングセンターでまとめ買いしたい	11:近場の馴染みの個人商店で買い物をしたい
	自然		14:自宅周りで自然を味わいたい
	都市	28:大都市以外（郊外や田舎など）に住みたい	28:大都市に住みたい
		30:生活に必要最低限のものが揃っている都市	

1) 現状の日立市に満足と回答した人は 40%程度であり，日立市に満足している人ほど「買い物」では近場でのショッピングとネットショッピングを重要視しており，「未知なる刺激」では落ち着いた変わらない街での生活を重要としていることが確認できた．「都市」では郊外や田舎で近場にない施設やサービスは周辺地域で利用する生活を重要とする傾向があった．他にも，「家族」「歴史・文化」「都市」の活動項目を重要と考える人が多いことが分かった．
2) アンケート回答者の 75%程度が集約型の都市を望んでいることがわかった．また，沿線集約型と拠点（駅）集約型の都市タイプと若者の性格や活動意向などの関係性を示した表を作成し，郊外での生活を望む人は沿線集約型の都市像，都会志向のある人は拠点（駅）集約型の都市像を提案した．若者における日立市の将来都市像としては，現状の日立市に不満が多かった人が好む，拠点（駅）集約型の都市への移行が望まれる．

謝辞：アンケート調査にご協力いただいた方々に心より感謝申し上げます．また本研究は東京ガス株式会社との共同研究として行ったものであり，茨城事業部西川向一氏，日立支社耕田和幸氏には貴重なご意見をいただきました．深く感謝申し上げます．

参考文献

1) 佐藤滋：現在の都市像の生成 -現代都市デザインの目指すもの- ，都市住宅学21号，1998 SPRING

2) 国会等の移転ホームページ　~これからの都市のあり方と公共建築~
http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/iten/onlinelecture/lec92.html
3) 第24回全都市「住みよさランキング」（2017年）の結果：東洋経済新報社，2017.
https://toyokeizai.net/articles/-/176683
4) 内閣府大臣官房政府広報室：世論調査報告書　国民生活に関する世論調査，平成29年6月
https://survey.gov-online.go.jp/h29/h29-life/index.html
5) 内閣府：平成29年版　高齢社会白書
http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/index.html
6) 瀬戸口剛ほか：集約型都市へ向けた市民意向に基づく都市将来像の類型化 夕張市都市計画マスタープラン策定における市街地集約型プランニング，日本建築学会計画系論文集 Vol.79 No.689，949-958, 2014
7) 菅野健ほか：大学生の余暇活動と生活の質に関する研究，第 56 回土木計画学研究発表会・講演集，2017.
8) Sensuous City[官能都市]－身体で経験する都市:センシュアス・シティ・ランキング : LIFULL HOME’S 総研，2015.
9) 日立都市計画（日立市，常陸太田市）都市計画区域の整備，開発及び保全の方針，茨城県，平成28年5月16日
http://www.pref.ibaraki.jp/doboku/toshikei/kikaku/tokei/kuiki-mp2.html
10) 国立社会保障・人口問題研究所：
報告書「日本の地域別将来推計人口」,平成25年3月推計

(2018.4.27 受付)

A STUDY ON YOUTH’S INTENTION OF ACTIVITY AND IMAGES OF THE IDEAL CITY: A CASE STUDY OF HITACHI CITY, IBARAKI PREFECTURE

Yuto TANIGUCHI, Toshiaki KIN, Minoru YAMADA and Terumitsu HIRATA